

還暦を迎えて

還暦は 人生の1ページ

下總 勉 (昭和47年建築科卒)

東京秋工会 幹事



平成21年9月3日に毎年恒例の生活習慣病予防定期検診を受け、今回もメタボその他の指摘をされ翌日まで浮かない気持ちで出社したら、健診センターからの電話があり「胃部レントゲン結果で再検診を必要とするので何時来られるか」との連絡であった。数日後、受診し、内視鏡検査(胃カメラ)の予約を取り説明を聞くと、レントゲン写真で影がある場所が見つかったので内視鏡による検査が必要だとのこと。自分としては痛みなどの不快な症状は無かったので、あまり深刻にはならなかった。後日、内視鏡検査による検査結果が出て診察室で『胃癌』の告知を受ける。父親が前立腺癌の為亡くなっているので、長男の自分には遺伝はあるものと覚悟していたが、予想と違った事でその場は少々戸惑った。その後、各種検査を実施し手術方法が決まり、同年10月29日に手術を行った。幸い、発見が早期だった事と腫瘍が出来た場所が切除しやすい部位だったらしく、転移は認められず1/3弱を残し胃が切除された。術後の経過も良く、13日目には退院となつた。丁度その年は東京秋工会幹事を引き受け2年過ぎていたので総会準備の手伝いも任せられていて、総会出席予定者の名札作成の役割を持っていた。ところがその最中に入院する事態になり、総会直前の頃、まだベッド上で唸っていた頃に三平会長から名札所在の問い合わせがあり、心身ともに参っていた。(ご迷惑・ご心配をかけました) 平成25年4月で術後3年半が経過し、ドクターからは「あと1年半経過を見よう」と言われた時、自分で不思議に思えたのは自分が本当に大病を患った人間なのだろうか? 入院中散々苦しい思いをした事も忘れてきているのかもしれない。時間と共に苦しさ・嫌なことが忘れられるのは人間の特権なのか、それとも自分の性格が良い?のかと。しかし、体は正直である。傷口がたまに疼く事があり病気の事を思い出させるのは感謝するべきことなのだろうか。

東京秋工会の役員会に復帰してから、飲酒の許可も出て同窓会の先輩達との懇親会で飲んだお酒が美味しいすぎて、1年間ノンアルコールで過ごした経験も自覚不足と大いに反省し現在は多少調整しながら美味しいお酒を楽しんでいる。

昭和47年に建築科を卒業し、群馬県前橋市の建設会社に採用された時の思い出がある。入社試験を受ける為46年9月に夜行列車で高崎のホームに下車したのが午前5時台、接続電車待ちから目的地迄の同じ電車に乗ってきた学生服を着ていた人がいたので話しかけてみると、なんと同じ会社へ試験を受ける為に青森から来たのであった。幸い2人共合格し自分は建築部に、彼は土木部に配属となり、40年も頑張っている。

秋工を卒業し、いよいよ入社の為に上京する日夜行寝台特急「あけぼ

の」に乗る自分を見送りに、両親と弟達(二男:S51年電気科卒、三男:S55年経法大付属高卒)がホームまで来てくれた他、建築科の同級生と所属していたレスリング部の部員・後輩が大勢見送りに来てくれたのは嬉しかった。しかし、レスリング部員がホームで「タイガーマスクの主題歌」を歌って貰った時は、自分が前年に先輩達を見送った時も歌った事が、意外と恥ずかしく感じたものだ。同じ列車に同級生の女子も上京のため乗り合わせたので、車内では退屈しなかつたが上野と高崎で下車駅が違っていたので自分が先に下車する時間に起きて来て「これから頑張ろう」と挨拶したときの彼女の寂しそうな顔は忘れられなかった。現在その女性は福岡県福岡市で家族と暮らしている。

自分が就職した会社には二人の先輩が在籍していたが後年には同じ職場となつた藤田昌博(S39A卒)氏でした。会ったことのなかった先輩でしたが、入社してからも秋田工業高校の先輩がいることだけでも心強く思っていた。同郷の先輩も多く、最初の配属となった建築現場では、5年先輩の能代工業高校出身者がいて、とても面倒を見てもらつたが、たった一つ私に注文をいただいた。『標準語を話せ』と。「なぜですか?」とあえて聞くと『俺がつられて訛りが出てしまうし、女にモテなくなる』との事。その先輩は今で言うイケメンでとにかく女性にもてていたので、すごい説得力を感じたのだ。それから話し言葉は標準語を話していたつもりだが、その場所は群馬県の田舎町、会話は群馬弁の標準語だったのだ。秋田弁と似通つたイントネーションや訛りがあったので全然抵抗なく使っていた。その為では無いと思うが50歳を過ぎた頃長年秋田を離れていると秋田の訛りや、方言など、いざ使おうとしてもすぐに出てこなくなるのを寂しく感じ始めていた。そんな時、東京秋工会の総会・役員会に参加し、そこにいる秋田弁が飛び交っているのでホットする気持ちがある年代から出てきていた様に思う。その様なこともあり、最近は秋田弁そのものが身边に感じてきている。

現在首都圏在住の同級生と1、2回/年、会って楽しい酒席を催しているので卒業41年以上経っているのにも関わらず、お互い変わらないなど時間も経つを忘れて騒ぎまくっていることが嬉しい。卒業後23年は、たまに行き会っていたのだが10年も経つと会うタイミングが取れなくなり始めた。それを再開できたのが東京秋工会の総会に合わせミニ同級会で集まろう!と声を掛けるきっかけができたことだ。

同窓会役員の手伝いは自分で仕事・遊び以外で没頭出来る普段とは違う時間のことだと思っている。実際ボランティア活動なのだから生活の時間にゆとりが無いと出来ない事と言われるかも知れないが、自分は敢えて違う時間を作る為に参加している。そのように考えると肩の力が抜けできているかもしれない。ボランティア歴が自分は子供達のサッカー少年団の応援から始まり、子供の中学・高校の部活応援、長男の大学での後援会組織で、埼玉県後援会の会長を経験させていただいたことも楽しく過ごしたものだ。東京秋工会の活動に参加させてもらって、病気や辛い話以外の楽しい話を、10年後に古希の喜び、17年後は喜寿の楽しさを寄稿出来ればもっと嬉しい。

地元密着の総合建設業



彩光建設株式会社

代表取締役 下總 勉 (昭和47年建築科卒)

〒330-0842 埼玉県さいたま市大宮区浅間町2-257
電話 048-647-3155 FAX 048-647-3370
E-mail tsutomo-shimofusa@saikoukensetsu.co.jp

47A卒ミニ同級会のご案内

昭和47年建築科卒の首都圏在住者で、総会後別会場でミニ同級会を毎年開催中。皆で楽しい時間を過ごしましょう。

連絡先：下總 勉 携帯電話：090-5345-2583

E-mail /tsutomo0207@jcom.home.ne.jp

携帯mail /pajama0207ts1954@docomo.ne.jp



..... 2012年参加者(敬称略)

秋本 小玉 近藤 佐藤 下總 富士崎 本川 横井